

ひと・まち・自然

トラまち Press (一財) 世田谷トラストまちづくり情報誌



March 2021

Vol. 19

特集

人にも 生きものにも 優しい 里山農園



P8

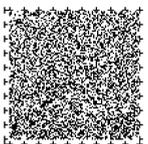
地域資源である「緑」と関わることによる新しい地域ケアのかたち
いわさき ゆたか
岩崎 寛さん

P9

せたがや散歩日和 第19回
世田谷線百年の歴史を軸に
世田谷城から赤堤、松沢にかけて
歴史と地域の記憶を辿る

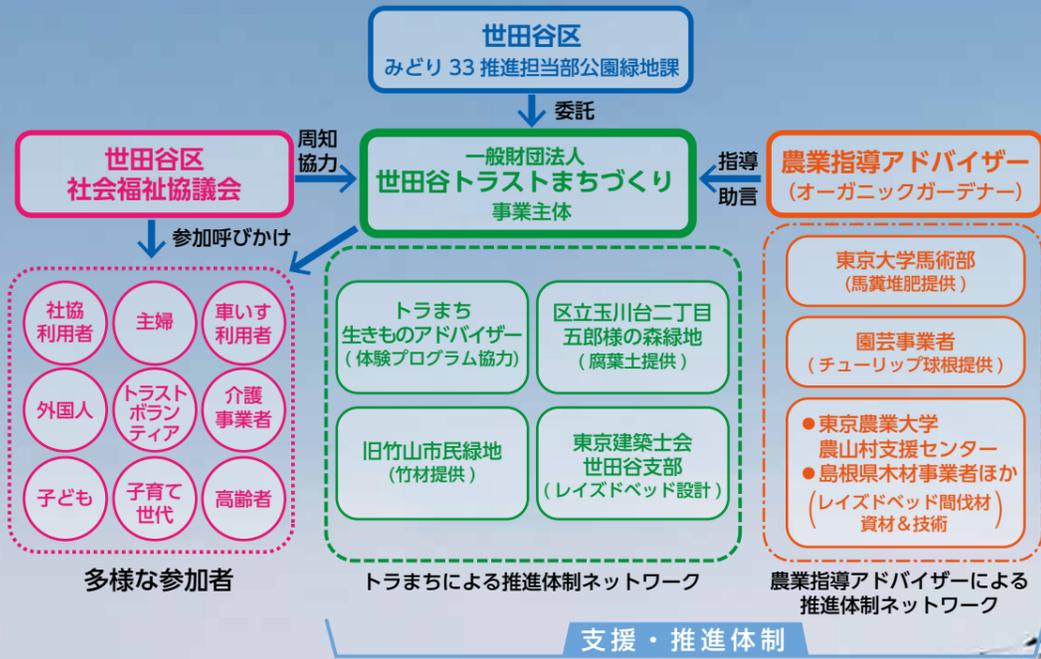
P13

あす
未来を紡ぐ人
えのもと よしひろ
榎本 吉宏さん



上の「音声コード」に、本誌の概要を記録してあります。
専用の読み上げ装置を使用して、音声で内容を読み取ることができます。

人にも生きものにも優しい里山農園ネットワーク図



人にも生きものにも優しい里山農園」をコンセプトに、自然が持つ力を活かし、様々な生きものが共生する多様性豊かな誰もが親しめる農業公園を目指している。

誰もが一緒に楽しみ、活動できる場として
 若者・高齢者、障害がある方もそうでない方も
 子どもの食育や環境教育の場、

「農地を残したい」という声を受け
 区は平成21年に「世田谷区農地保全方針」を策定。
 農地保全重点地区の一つとして、令和元年7月3日
 喜多見5丁目の次大夫堀公園内に里山農園がオープンした。
 区の『教育・福祉農園』として位置付けられたこの農園は

平成の間に農地が半減した世田谷区。
 環境保全、避難場所の確保はもちろん
 区民の農業体験や地域活動の場としても

人にも 生きものにも優しい 里山農園



参加者とともに取り組む手づくりの農園整備

次大夫堀公園の東端に位置するこの農園は、小さな入り口で四方をフェンスに囲まれた、人が少し入りにくい場所だった。

中に入ると園路は除草シートに覆われ、畑部分は踏み固められた土にスギナが生えている状態だった。そんなこの地を入りやすく賑やかで親しみがわく農園にしようと、住民参加で試行錯誤しながら様々な体験プログラムを企画し参加者を募った。

2019年7月3日のオープン当日に開催した農園体験オープニングプログラム『土とあそぶ、土を耕す』では、子どもや近隣住民の方たちをはじめ、



2019年春 スギナを刈った開園前の里山農園の様子



2020年夏の里山農園の様子

障害のある方、土を触りたい方、虫を好きな方など、様々な参加者が集まり、タネだんごづくりや土づくりなどを楽しんだ。

その後は月に1回、第4水曜日に定例活動を実施。除草や種まきなどの畑作業だけでなく、参加者たちの手作りによる園内の環境整備や「車いすを利用する参加者でも土に触れる畑があるといいね」という声から生まれたレイズドベッドの検討、収穫した野菜を使ったランチ会なども。こうした体験プログラムや定例活動を通じて、農園の環境整備も含め、参加者みんなで居心地の良い空間づくりを行ってきた。



農園の入り口にある黒板は、日々の活動の様子を通りすがりの人にも伝え、参加を促すためのしかけでもある。

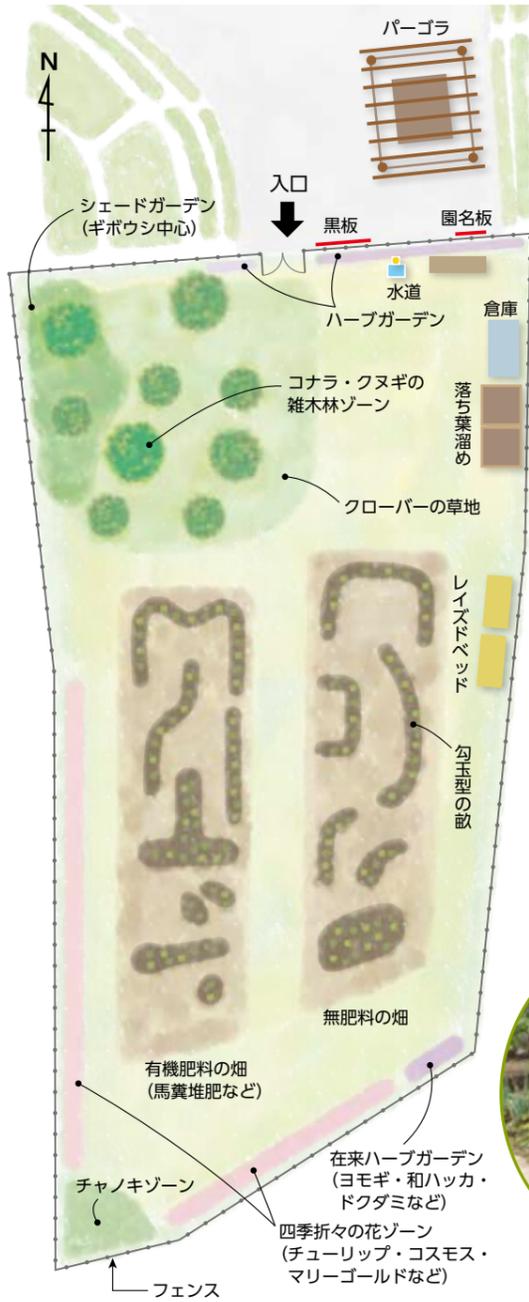
500㎡という程よい規模で、参加者の面々が見渡せる農園には、勾玉型まがたまの丸みを帯びた畝があちこちに広がっている。本来、畝は南北あるいは東西に切つて、間隔は平行にするものだが、ここの畝は並びも形も様々でユニークで、眺めるだけでもほのほのと楽しい。

農園内の植栽や農業指導を担うオーガニックガーデナーの松下美香氏は「農園のコンセプト『人にも生きものにも優しい』にちなんで畝も優しく楽しい形にデザインしました。畝幅も両側から子どもが手の届く寸法に、また畝と畝の間は、子どもと手をつないで歩ける幅に計算したんです」

ここでは、畑は2区画に分けて同じものを植えている。東側は無肥料、西側は馬糞堆肥など有機肥料で栽培し、各々の区画で野菜の生育状態や虫



初回体験プログラムの広報チラシ



勾玉型の丸みを帯びた畝。2区画に分けた畑はどちらも無農薬、無化学肥料。



公園として四季の草花を楽しむように、また、蜜蜂を呼び寄せ作物の受粉もしてもらうため、農園内の畑以外にも積極的に活用し、花やハーブを植えている。



2019年 冬野菜の収穫後、参加者みんなでとん汁をつくり味わう。



里山農園のアドバイザーを務めるオーガニックガーデナーの松下美香

この里山農園のテーマ『優しい』は土壌や生きものに対してとも言えて、農業や化学肥料を使わないことで、生物多様性が豊かな農園を目指している。

小松菜などアブラナ科の野菜に、春菊などキク科の野菜を混植すれば、害虫防除になる。また、通常はすべて抜いてしまう雑草も、背の高いものは除草しつつ、背の低いものは抜いてもその場に残している。それは、土壌菌を紫外線から守り土の乾燥を防ぐのと同時に、様々な生きものへの住処を提供しているのだ。こうした知恵も農園の『優しさ』を支えている。

の付き具合を実験的に比較できるようにしているのだ。有機肥料区画で使用する馬糞堆肥は、東京大学馬術部から入手して混ぜている。

2019年7月3日 農園体験プログラム「土とあそぶ、土を耕す」



畑の土づくりのほか、クローバー・ハーブの種などを混ぜたタネだんごをつくり、エントランス近くの裸地に蒔いた。何もなかった裸地がクローバーの草地に。

2019年9月7日 農園体験プログラム「水まわりをデコレーション」



手作りにしたミニ木枠にペイントし、園名板の支柱と水栓に飾り付けをし、エントランスの賑やかさを演出。農園に入りやすい雰囲気になった。プログラム協力：東京建築士会世田谷支部

2019年10月～（現在進行中） 「レイズドベッドづくり」



レイズドベッドとは、腰が曲げづらい方、車いすの方などのために床面を高くした花壇、畑。里山農園では薬剤を使用せず高温の窒素加熱により約20年は腐らないよう加工処理した島根県の間伐材が使われている。制作協力：東京建築士会世田谷支部 東京農業大学農山村支援センター、島根県木材事業者ほか

2020年7月18日 「身近なものから環境浄化資材“えひめAI-2”をつくろう」



えひめAI-2とは愛媛県工業技術センターが開発した納豆やヨーグルト等の食品に含まれる菌を利用して土着の微生物を活性化し、水質などの環境をきれいにする環境浄化微生物資材。里山農園では土壌改良に使用。生ゴミや排水口のニオイ取りやヌメリ取りに使える。

様々な参加者たちが集う里山農園定例活動日

2020年10月の定例活動日には二十余名が集まり、収穫から除草、土づくり、秋冬野菜の種蒔きなどに汗を流した。

この日の収穫は、ナスや落花生、ズッキーニなどで、お馴染みの落花生が殻ごと土中から現れると、参加者たちから驚きの声が上がった。
「落花生がこんなふうに見えるなんて知らなかった！」

既に収穫を終えていたが、バターナツツカボチャに使われた籠もこの日に撤去。匍匐するカボチャの蔓を立体に這わせて栽培するための籠で、ここには農園の面積（地上を這わせるスペースはない）に応じた工夫がなされている。竹でしっかりと組まれた籠を解体するのは、緑地保全活動のトラストボランティアでもある頼もしい男性だ。農園で使われるこうした竹も、近くの旧竹山市民緑地（喜多見5・21遊び場内）で間伐された竹材を利用しているので無駄がない。

『だれでも参加して楽しめる』という謳い文句のとおり、この日も赤ちゃんを負ったり手を引いたり、子連れのお母さんたちから、ご近所にお住まいの婦人方、リタイア後を楽しむ男性に見せてくれた。

SNSのグループで農園の状況を共有するのも今風。活動日に出かけなくても農園の様子が見られるのだ。開花の瞬間を撮って写真を送ってくれる人もいれば、台風一過の翌朝一番で「農園、異常なし」と一報をくれる人もいる。強風で倒れそうな枝に支柱を添わせてくれる心配りなど、いつもだれかが見回っているから活動日は365日と言ってもいいほど。早くもみんなの居場所となっている。

家庭菜園を続ける一方で、農園の活動にも参加する農作業ベテラン級の男性。アドバイザーがいる活動は、新しい情報に触れられるので欠かさず参加している。以前土壌改良について学んだとき、なぜそうなのかの根拠も説明してもらえ、たいそう役に立ったという。松下アドバイザーもこの点は意識的に指導していて、ビギナーからベテランまでが満足できるよう気を配っているそうだ。

「子どもに土の上を歩かせたいし、虫も見せたい」と語るのは一歳の子をおんぶして作業するお母さん。

子どもの頃、北海道の祖父母と一

性たちや若者までと、多様な世代が集った。

また、車いすで参加の方も、レイズドベッドで栽培されたニンジン収穫。農作業が好きでも、車いすのままでは地面に手が届かず難しいが、レイズドベッドがあれば、種蒔きも収穫もぐつと楽にできるので助かるとのこと。

ほかの参加者の声も聞いてみよう。近所のお友達を誘って参加している主婦たちは、活動の楽しみは何より収穫物を味わえることだと口をそろえる。夏の暑さや蚊にくわれることなど苦労も多いが、食べ頃も推し量りながらの収穫は、貴重な体験だそうだ。

退職後には地域とのコミュニケーション不足に陥ることが多いが、こうして体を動かせる場があるのはありがたい、と言うのはおとなりの成城地区から来ている男性。活動日に学んだとおり、自宅でもプランターに種を蒔いてみたがうまく育たず、今はもっぱら農園での活動に身を入れていっている。

農園の活動で土づくりから種蒔き・生育観察・収穫を経て、自宅で自ら調理し味わうところまで『フルコース』で楽しんでいる男性は、

一緒に畑を耕した経験が楽しく、トウモロコシなど作物ができたときの気分は格別で、自分も農作業が性に合うとそのときに気づいたという。畑の楽しさを味わせたくてコロナ禍の自粛期間中も子どもを連れてせつせと通ったそうだ。

「ここは草花を摘んでもいいし、できた実を採ってもいい。子どもも大人も楽しめる、ありがたい農園です」

たしかにここでは、定例活動に参加している人は、畑の手入れの一環として野菜を収穫してよいことになっている。八百屋さんやスーパーマーケットで見かけない野菜が、農園では実際に目の前になっているのだから、子どもたちには新鮮な驚きに違いない。野菜はこうして育てられるのだと身をもって知る、またとない食育体験にもなっているのだ。



里山農園のこれから…

「トラまちさんから『人にも生きものにも優しい』というコンセプトを提案してもらったとき、うん、これだ。とストンと腑に落ちたんです。とても良かった。」と話すのは区の公園緑地課担当者。

「レイズドベッドの制作協力といい、竹籠の竹や馬糞の調達といい、あちらこちらとの連携がうまくいっているのも、トラまちさんのネットワークのおかげですね。」

建築士、農業指導アドバイザーをはじめ、介護事業者や地域コミュニティ、ボランティアなど、様々なつながりを持つトラまちの強みが発揮されたのだという。

「区としては、今後も『人にも生きものにも優しい』というコンセプトに合う企画をどんどん進めてもらいたいと思います。」



開園から1年余りの現在、当初数人だった活動日の参加者は毎回二十数人まで増え、農園の認知度も少しずつ高まり、楽しむ区民も増えている。

今後はどのような展開が期待できるのだろうか。里山農園の担当者は、「コロナの状況を見極めつつ、近くの高齢者施設、障害者施設、保育園などにも周知して、日常的に訪れてもっと楽しんでもらいたいと考えています。」

また、生きものの多様性を高めるため、体験プログラムとして、近所の人や子どもたちと一緒に水辺ビオトープづくりやインセクトホテル（昆虫の住処）づくりも計画中です。」と、さらなる意欲を見せる。

参加する動機は人それぞれでいい。なにもない状態から始まった里山農園での活動の中で、様々な人が出会い、笑い、ともに汗を流すことで、一人ひとりにとって居心地のいい、かけがえのない居場所になってほしい。

広さ約500㎡の小さな農園です

世田谷区立次大夫堀公園内里山農園



《定例活動》

毎月第4水曜日 午前9時30分～11時30分
主に畑の手入れを中心として、タネまき、苗の定植ほか、土づくり、除草、水やりのほか、居心地のいい空間づくりを行う。

《農園体験プログラム》

原則、土日開催 年間2～3回を予定。
地域に広く声掛けを行い、普段、定例活動に参加できない人にも農園の楽しさを味わってもらおうプログラム。

《開園時間》午前8時30分から午後5時まで
《休園日》年末年始(12月29日～1月3日)
※園内管理のため、臨時休園する場合があります。
《所在地》世田谷区喜多見5-5
《アクセス》

- ▶小田急線「成城学園前」駅下車 徒歩20分
- ▶小田急バス・東急バス
成城学園前駅西口⇨「玉07」⇨二子玉川駅
「次大夫堀公園前」バス停から徒歩3分
- ▶小田急バス
狛江駅北口⇨「玉08」⇨二子玉川駅
「次大夫堀公園前」バス停から徒歩3分

活動に参加希望の方は、事前にお問合せください。

問合せ先 (一財)世田谷トラストまちづくり トラストみどり課 ☎03-6379-1624

地域資源である「緑」と関わることによる 新しい地域ケアのかたち

園芸療法の本質は、「育てる」ことと「狩る」ことである。植物を育てることは、大変ではあるが、その成長を楽しむに待つことで、生きがいや、やる気の向上に結びつく行為である。また、植物を狩る（収穫する）ことは、充実感や満足感に繋がり、人の幸福度を向上させる行為である。例えば、イチゴやブドウなど、店舗で購入するよりも高い金額を支払ってわざわざイチゴ狩りやブドウ狩りといった味覚狩りに行くことから、人はこの「狩る」という行為を求めていることがわかる。よって、普段の生活の中にも植物を「育てる」「狩る」ことができれば、幸福度が増し、QOL(注)の向上や心身の健康にも繋がると考えられる。しかし、都心部では集合住宅が多く、個人の庭など個人が自由に関われる場所がない人も多い。そこで私は、4年前に、誰でも『摘んで良い花壇』を公園に設置することを提案した。

千葉市花見川区にある花園公園は、地域住民のコミュニティ形成の場として積極的な利用が期待されていたが、実際の利用は少なく、関心の低さから、ゴミの不法投棄も発生し、住民の公園に対する意識向上が求められていた。この状況を改善するために、地域住民が公園と積極的に関わる仕掛けとして『摘んで良い花壇』を設置した。花壇は、誰もが簡単に作業できる「レイズドベッド」とし、摘んで香りを楽しむことや、ハーブティーとしても使えるハーブを植栽した。レイズドベッドには『見て、触れて、香りを楽しんでください。気になったら、少しついでですよ』と書いた看板も設置した。すると、これまで公園に関心の無かった地域の人々がハーブを触りに来る光景がみられ、さらにはデイサービスの高齢者や、学校帰りの子供たちが水やりをし始めたのである。しかし、個々が勝手に灌水していたため、ハーブの生育状態が悪くなってしまった。これまでも、公園の植物が枯れても素通りしていた住民が、自分たちが関わったことから公園に愛着が生まれ、どうすれば枯れないかと住民同士

岩崎 寛

で相談するようになったのである。こうして、この公園は現代社会では関わりが希薄な地域住民同士のコミュニケーションの場となり、区の地域活性化支援事業に認定され、現在も活動が続いている。

世田谷区の次大夫堀公園内里山農園も、多くの地域住民が、気軽に植物と関わる事が出来る場や機会を提供している。厚生労働省は、20年後までに健康先進国を目指す「保健医療2035」という指針を2015年に出している。その中で、20年後へのパラダイムシフトとして『病院での治療』から、『地域でのケア』へと示されている。つまり、これからは地域資源を上手く活用し、地域住民の健康・福祉を展開していくことが求められる。この次大夫堀公園内里山農園における取り組みが、健康先進国を目指す我が国の「地域ケア実践モデル」として、さらに発展することを期待している。



花見川区 花園公園のレイズドベッド



岩崎 寛 (いwasaki ひろし)
千葉大学大学院園芸学研究科 環境健康学領域 准教授。
岡山大学大学院自然科学研究科修士(農学)。
日本園芸療法学会認定上級園芸療法士。
1968年京都市生まれ。
専門は緑地福祉学、環境健康学。園芸療法やアロマセラピーなどの「植物の療法的効果」や、病院緑化など「医療福祉施設の緑化」、地域住民の健康に寄与する「緑を活用した地域ケア」などに関する研究を行っている。
日本園芸療法学会、日本緑化工学会、日本ガーデニング協会理事を務める。
NHKテキスト「趣味の園芸」にて2021年3月号まで「心と体にやさしい園芸療法」を連載。

注) QOL: 「Quality of Life (クオリティ・オブ・ライフ)」の略称で、直訳すると「生活の質」となるが、人が人間らしく満足して生活しているか、自分らしい生活が送れているかを表す概念として使われる。

世田谷線百年の歴史を軸に 世田谷城から赤堤、松沢にかけて 歴史と地域の 記憶を辿る

東急田園都市線が走る三軒茶屋のまちと、京王線が走る下高井戸のまちを結ぶ東急世田谷線(玉電)。小さな路線だが、大正時代から百年の時間を経て、世田谷のまちに潜む歴史や地域の記憶を眺めてきた電車でもある。そんな世田谷線の線路に沿ったり離れたたりしながら、いにしえの時と現在を行き来する散歩を楽しんでみよう。



- 宮の坂駅
- 世田谷城趾公園
 - 豪徳寺
 - 尾崎行雄ゆかりの洋館
 - 豪徳寺駅
 - 西福寺
 - 区立松沢小学校
 - 下高井戸駅前市場
 - 下高井戸駅

世田谷の町並みを眺めながら、のどかに走る東急世田谷線に揺られ、宮の坂駅で降りる。今回の散歩は世田谷線のちよつと真ん中辺りに位置するこの駅を起点に、世田谷線の線路に沿ったり離れたたりしながら、京王線側の終点下高井戸を目指す小さな旅だ。

最初の目的地は、駅のすぐ目の前を走る城山通りを東に4〜5分ほど歩いた世田谷城趾公園。散歩の出发点に設定した駅周辺だけでも、記憶の寄

出発点に折り重なる 時間の記憶を味わう

宮の坂駅前

室町時代から 明治維新までを駆け 抜ける

世田谷城趾公園から 豪徳寺へ

さて世田谷城趾公園。読んで

り道々を楽しめてしまうのが、世田谷散歩の悔れないところ。たとえば、駅前の広場にはもともと1925年(大正14年)に玉川電気鉄道45号として製造され、廃車後は江ノ電でも活躍した車両が保存されている。また、この駅はおよそ80年前に旧宮ノ坂駅と旧豪徳寺前駅が統合してできたという(地図参照)。ともに世田谷線の歴史の証言者であり、こだけで百年に及ぶ世田谷線の歴史の一部に触れることができそうです。

全長5kmと路線距離こそ短い世田谷線だが、開業以来、百年近い歴史があるだけに、そこには様々な記憶がある。特に宮の坂駅は、千年近い歴史を持つ世田谷八幡宮や、これから訪れる世田谷城趾公園と豪徳寺が近いだけに、重層的な時間を格別味わうことができる駅なのだ。

世田谷城趾公園から次の目的地である豪徳寺まで歩く中で、かつての世田谷城の姿を想像できる遺構のいくつかは、遠くから眺めることができる。コラムをご参照いただき、そんな想像をめぐらせながら豪徳寺を目指してみよう。なお、有志団体「世田谷城跡保存会」が城跡全体の保護と復元のため啓蒙活動に取り組んでいる。

豪徳寺もかつては世田谷城の主要部であり、様々な歴史を持つ寺だが、現在では彦根藩主・



- 地域風景資産
- せたがや百景
- 名木百選
- 今回のお散歩ルート
- 瀧坂道
- 世田谷線廃止駅



世田谷城の城郭構造(推定)
 ■ 現存する土塁など ■ 推定される土塁
 □ 発掘調査などにより推定される城の最大範囲

COLUMN 世田谷城

世田谷城の城域は現在の世田谷城趾公園にとどまらず、現在の豪徳寺の辺りまで広がっていた。今では住宅地としての開発が進み明確な範囲は不明だが、発掘調査などから最大範囲は、豪徳寺、世田谷城趾公園、周辺の住宅地をも含むと推定されている。

地形で言えば、世田谷城は豪徳寺付近から南に突き出した舌状台地の上に築かれていて、その南端が城趾公園の城山通り沿いの入り口。城山通りのさらに南側には目黒川の支流である烏山川が流れ、舌状台地の東端へと大きく蛇行する形で囲み、天然の堀をなしていたとされる(現在の烏山川緑道)。

世田谷城の郭については、右図に示すように八ヶ所以上あったと考えられている。たとえば豪徳寺山門(B)を背にして左手の堀の向こうに見える土手(C)も、かつて郭を構成した土塁の現存する一部である。そして複雑に展開した土塁・堀で構成された郭周辺部は非常時の「詰城」、北側の豪徳寺部分を「吉良氏の館」と推定し、この二つが一体となって「世田谷城」を構成していると考えられている。

ちなみに、城の北側には江戸時代初期まで重要な往還であった瀧坂道(本文参照)が走っているが、この瀧坂道は江戸から現在の豪徳寺一丁目に達したところで城域に対応するように大きく鍵の手に曲がっている。またこの範囲内でS字カーブがふたつ設えられているのは、世田谷城の防衛を目的とし吉良氏によって整備されたものだとされている。さらに城域の東には、鎌倉街道の中道に当たる道が今でも走っていて瀧坂道とも交差することから、世田谷城周辺が当時の交通の要衝であった様子も目に見えるようだ。

出典:世田谷城趾公園前の案内板ほか



豪徳寺の招き猫児

井伊家の菩提寺として、そして「招き猫発祥の寺」として親しまれている。

そもそも豪徳寺が「招き猫発祥の寺」とされているのは、二代藩主・井伊直孝がこの地を訪れた際に雷雨に祟られたが、猫が門内に招き入れたため雷雨を避けることができた、という伝説による。招き猫の発祥については諸説あるが、このことがきっかけでちに井伊家御菩提所としたともいうから、豪徳寺を訪れた折には、仏殿の左側にある招福殿と、招福殿を右手に見てさらに奥にある井伊家の墓所を見学させてもらうことが、豪徳寺を味わう第一歩だろう。招福殿にはずらっと招福猫児が並び、ご利益を感じた人がこんなにもいるんだなと、自分もひとつ招き猫児を手に入れてみたくなる(受付で入手できる)。

また、井伊家の墓所には桜田門外の変に斃れた井伊直弼の墓があるのももちろん、少し離れた山門の左手、三重塔の裏手にはひっそりと、彦根藩が戊辰戦争下野小山の戦いで玉砕した彦根藩士11人の首を祀る瘞首塚もある。つまり、幕末から明治維新の記憶が色濃く漂う場所でもあるのだ。

戦国時代の記憶から庶民の暮らしの記憶へ

明治の洋館から西福寺へ

豪徳寺の山門のちようど真

裏まで歩いたら北上する形で路地に入ると、閑静な住宅街の中に鮮やかな水色の洋館が見えてくる。華美すぎず可愛らしい雰囲気をもつこの洋館は、明治中期に高級官僚が英国出身の娘(のちに政治家 尾崎行雄(※)の妻)のために建てたとされ、東京に現存する居住用の洋館としては最古級とも言われている。1933年(昭和8年)に港区麻布から英文学者によりこの地に移築された。一時解体の危機に瀕したが漫画家 山下和美氏が中心となり保存活動を展開、漫画家 新田たつお・笹生那実夫妻の協力もあり保存されることに。今後はクラウドファンディングなどで補修費用を募り、建物の雰囲気を生かしたカフェやギャラリーとしての活用を検討している。



尾崎行雄ゆかりの洋館(現在は非公開)

そして、この洋館を通り過ぎて突き当たりの道は瀧坂道(※)と呼ばれる古道だ。江戸時代初期までは江戸から府中に向かう主要な道で、世田谷城とも深く関係した。

この瀧坂道に出て左折するとすぐに世田谷線の線路に出る(旧宮ノ坂駅は瀧坂道と交差するこの辺りにあった)。ここ

から線路沿いに北上し、商店街を通り過ぎると小田急線豪徳寺駅。ガードをくぐり、すぐ左手の小さな飲食店街に入ると世田谷線山下駅が目の前に現れる。その手前の路地をひよいと右手に入ると緑道が見えてきた。かつての河川の上に造られたこの北沢川緑道(※)を少しだけ歩いてから左折すると緩やかな坂になっ

ている。その坂の左手にある大きな寺は善性寺だ。赤堤山の山号を持つ寺で、この辺りから赤堤の土地に踏み込むことになる。

ここから、赤堤通りを渡ったところにある六所神社は、この辺り一帯の赤堤村の鎮守でもあった。毎年10月に地元有志

「赤堤に文化を!六所の森の会」によるクラシックコンサートが境内で開かれている。かがり火の中での演奏は、とても幻想的な雰囲気だ。地域の方々に長年愛されているようだ。

六所神社を出て踏切を渡り(旧六所神社駅はこの辺りにあった)、線路沿いの道を経て赤堤の住宅街に入る。比較的大きな邸宅が続く道を進んで行き、西福寺通りを渡って右に曲がると、すぐ西福寺(※)の山門が見える。西福寺はこの地域に親しまれた古刹だ。玉川八十八ヶ所霊場46番で六所神社の別当寺でもあった。庭の牡丹や藤の花、サルスベリの木が楽しめる地域の憩いの場所である。

現代の町へと歩みを進め

今日の散歩を振り返る

江戸城御囲い松の兄弟松から下高井戸駅へ

西福寺から少しだけ北上して、赤松通りに入る(春にはハナミズキの並木がきれい)。ここから世田谷線のほうに戻り、線路沿いに松原駅から下高

井戸駅を目指してもよいが、せっかくなのでちよっと寄り道をしてみよう。

この赤松通りの西の終端まで歩いて右手に目をやると、保育園の庭から路地側に大きな松の木がニョキッと突き出しているのに一瞬驚く。この松は樹齢約四百年の古木で、江戸城の御囲い松と同じ苗木から育ったもの。そのため「江戸城御囲い松の兄弟松」として地域に親しまれており、世田谷区の地域風景資産に選定されている。

保育園の隣には区立緑丘中学校がある。この校庭に校舎より高くそびえる二本の大ケヤキは世田谷区の名木百選に選ばれており、同じく地域風景資産にも選定されている。その偉容は、ついさっき歩いてきた赤松通りからも一望できるほどだ。

緑丘中学校を左手に見ながら細い遊歩道を進むと、少し広い通りになる。この道は、左右に日大文理学部や日大櫻丘高校が並んでいるので日大通りと呼ばれているが、春になるとその桜並木、桜のトンネルの見事なこと。この桜並木(日大文理学部の桜)は、せたがや百景のひとつに数えられている。



江戸城御囲い松の兄弟松



緑丘中学校の大ケヤキ

日大通りを抜けた辺りから、ぼつぼつ飲食店などが増え始め、下高井戸の商店街となる。そのまま、まっすぐ歩けば今回の終点、下高井戸駅だ。通りがだんだん商店街めいてきたと思ったら、交番の先の右手になにやらコンクリート打ちっ放しのモダンな建物が。一瞬、アパレル店などが入ったショッピングビルに見紛うが、実は区立の松沢小学校(※)だ。この校舎は、2014年(平成26年)の第14回公共建築賞の優秀賞に輝いている。

賑わいを見せている。この市場で活きのよい魚を買って帰り、家で一杯やりながら本日の散歩の記憶に浸るのもまた一興。あるいは駅周辺には地元の名店も少なくないので、そこで小腹を満たしながら休憩するもよし。また、今来た道を少し戻るが、駅から数分のところにある月見湯という銭湯で、ゆっくり疲れを癒すこともできる。

そして、もう下高井戸駅(※)は目の前。1956年(昭和31年)にできた駅前市場の建物は今も健在で、品揃えも店の対応も素晴らしい鮮魚店を中心に、

世田谷線の線路に沿ったり離れたりしつつ、いろいろな歴史や地域の記憶を辿りながら歩き始めた散歩が、終点ではするすると現代の活気のある時間に引き戻されていくような、そんな妙なる味わいのある散歩だった。

●宮の坂駅
1945年に旧宮ノ坂駅と豪徳寺前駅が統合され開業。1966年に宮ノ坂駅から宮の坂駅に改名された。駅名は、世田谷八幡宮の東側を走る坂道・宮の坂に由来する。

●世田谷城址公園
かつての1帯にあった世田谷城の城跡の一部を1940年に公園として開園。世田谷区内唯一の歴史公園であり、東京都指定旧跡である。せたがや百景にも選定されている。

●尾崎行雄(1858年~1954年)
日本の議会政治の黎明期から第二次世界大戦後に至るまで衆議院議員を務め、当選回数・議員勤続年数・最高齢議員記録と複数の日本記録を有することから「憲政の神様」議会政治の父と呼ばれる。東京市長時代、ワシントンにサクラの苗木を贈り、その返礼としてタフト米大統領から「日米親善交流の証」として、ハナミズキ苗木の寄贈をうけた。世田谷区深沢にある都立園芸高校には、返礼のハナミズキ原木一本が唯一枯れずに生きている。

●瀧坂道
江戸時代初期に甲州街道が開設される以前、江戸(青山)と武蔵国の国府があった府中とを結び最も重要な往還だった古道。世田谷区地域風景資産に選定されている。

●北沢川緑道
赤堤から山下駅を通り代田、代沢、池尻まで続く緑道(全長約4.3キロメートル)。昭和初期まで農業用水として利用されていた北沢川が昭和40年代に暗渠化されたのち、1978年頃から緑道として整備されたもの。世田谷区地域風景資産に選定されている。

●西福寺
区内最古と言われる仏像である御本尊木造薬師如来立像(平安時代末期から鎌倉時代初期の制作とされる)と阿弥陀一尊画像板碑は共に世田谷区の有形文化財に指定されている(いずれも非公開)。本堂裏の墓所には江戸幕府旗本・服部家一族の墓があり、貞勝はじめ40余名の墓碑がある。

●松沢小学校
1887年、当時の松原村、赤堤村、上北沢村の三か村で設立された小学校。1947年より世田谷区立小学校となる。創立120周年の節目となる2009年に新校舎を落成した。ちなみに校名にもなっている「松沢」という地名は、1888年に上北沢村全域と、松原村、赤堤村、世田谷村の各一部が合併し、上北沢と松原から名前を取って「松沢村」として成立した。1932年に東京市世田谷区に編入された。

●下高井戸駅
京王線下高井戸駅は1913年、京王電気軌道の駅として開業。1938年に日大前駅と改称したが、1944年に下高井戸駅に戻った。



有限会社 ステラTokyo
代表
えのもとよしひろ
榎本吉宏さん

世田谷区若林で「孫心の介護」を旗印に運営されている訪問介護の『まごころ介護』。その創設者・代表であり、最近では保育園「そらとにじのいえ」や地域交流イベントスペース「みんなのジッカ」の運営へと事業を展開している榎本吉宏さんに、仕事に対する想いや新しい事業を展開した背景について、お話を伺いました。

人と人との絆を大切に、くだけた言い方をすれば「一緒に生きていくんだよなあ」という気持ちで訪問介護・保育地域交流事業を展開する榎本吉宏さん。訪問介護の事業所を設立してから16年になります。訪問介護の世界に進んだきっかけは、大学時代のアルバイトでした。

の仕事を続けると決断。卒業してすぐ、アルバイト仲間を中心に介護事業所を立ち上げ、1年後には法人化しました。その際、仲間のひとり（現在の奥様）が発した「自分のおじいちゃんやおばあちゃんを安心して任せられる、孫心の介護」を、自分たちの手でやりたいな」という一言が、事業の方向性を決定。「まごころ介護」の名も、ここから名付けられたそうです。

世田谷区桜丘の東京農業大学で国際協力を専攻していた榎本さんは、海外に渡航する資金を捻出するため、訪問介護のアルバイトを開始。仕事を始めるとすぐに、利用者に喜んでもらえることの喜びを実感し、介護の仕事に熱心に取り組むようになりました。

「利用者さん一人一人に親身になって対応する」というのが介護の仕事に対する榎本さんの考え方。利用者に対する態度が起った場合などには、「利用者さんの生活に寄り添いその生活を守る、利用者さんと一緒に生きてるんだから」という気持ちで先に立ちます。起業の地・世田谷を拠点にし続けているのは、みどり豊かな環境という点に加え、長い付き合いの利

その一方、「業務としての効率を上げ、一人でも多くの利用者さんの力になる」という視点も大事。そのためのノウハウや考え方をスタッフと共有できるような工夫を重ね、「利用者さん一人一人と親密になって対応する」文化を一緒に育んできました。また、効率よく業務を遂行できた人になるべく多くのお給料を渡せるような制度づくりに腐心。スタッフのことを大事に考えてきた結果、「責任感の高いスタッフに恵まれ、激甚災害やコロナ禍などの中でも変わらず、利用者さんの生活を支え続けられているんだなあ」と、スタッフに感謝しつつ誇りに思っています。

榎本さんが3年前に立ち上げた保育園『そらとにじのいえ』は、そんな「スタッフを大事にする」という姿勢が発端。「介護の手が足りないときに、子どもの世話をしてくれるなら行けます」と申し出てくれたスタッフがいて、で、事務所でお子さんを預かることをうまく事業化すれば、子どもを持つスタッフも仕事がしやすくなるんじゃないかと。手探りで検討を始め、「企業主導型保育事業という制度を利用すれば採算的にも実現可能な」と考え始めたとき、トラまちの空き家等地域貢献活用支援事業に出会いました。「実践者から空き家活用について学べる（空き家等活用ゼミナール）にも参加し、ぜひぶんと勉強させていただきました」。最終的には、このゼミで出会った建築士坂田裕貴さんが設計した物件を借りること

ハロウィンのカボチャのランタンづくり
『みんなのジッカ』にて

トラまち TOPICS

財団の新たな拠点や取り組みをご紹介します。



新たな市民緑地がオープン
〔松原一丁目日章館亀井邸市民緑地〕松原1-31-6
多様な庭木を集め育てていた昭和初期からの庭苑です。生きものも多く、身近な動植物とのふれあいを通じた学びの場となればと考えています。完全に宅地化された松原地区の中で、みどり豊かな空間を後世に残し、かつての生活文化を伝え、地域の絆を深めるよう、今後も活用されます。



オンラインを活用した取り組み
三密回避が求められる中、オンラインを活用したイベント・情報発信に取り組んでいます。まちづくりファンド公開審査会、まちづくり交流会、シンポジウムや講座などzoomミーティングで開催したほか、YouTubeチャンネルを開設し動画の情報発信も開始しました。

新たな地域共生のいえがオープン
オーナーが住まいをまちにひらき、地域の居場所づくりを行う「地域共生のいえ」。新たに2ヵ所が仲間入りしました。「箱庭カフェ」（世田谷4丁目）は英語教育に携わるオーナーによる国籍・年齢関係なく集える場で、「さくらJoin」（桜1丁目）は元幼稚園の先生による近隣の高齢者の集う場と、親子でゆったり過ごせる場です。どちらも地域でのゆるやかなつながりを育む一歩を踏み出しています。



箱庭カフェ



さくらJoin

ビジターセンター・リニューアルオープン
空調設備等の改修工事のため、昨年10月より臨時休館していた成城のビジターセンターが3月16日よりリニューアルオープン（予定）。桜が見頃を迎えるのに合わせ、「野川を彩るサクラたち」と題した企画展を開催します。是非お気軽にお立ち寄りください。



コロナ禍でもできる！「まちの生きものしらべ」セミの鳴き声日記をつけよう！

昨年の7月から9月にかけて家に居ながら参加できる生きもの調査としてセミの鳴き声をカウントし、それを送って頂くといった取り組みを行いました。総数は31通と決して多くはなかったのですが身近な自然に耳を傾ける良い機会になったのであれば幸いです。「世田谷生きもの新聞」にて詳しく紹介中。



**市民緑地から区の公園・緑地へ
～区民との協働によるトラスト運動の成果～**

竹山市民緑地と十一山市民緑地が世田谷区の公園・緑地となることになりました。失われていく民有地のみどりを残すため、竹山は平成14年、十一山は平成18年より、市民緑地として緑地の公開および保全活動を行ってきました。特に竹山は、ボランティアの皆様が18年にわたり、少しずつ丁寧に美しい竹林へと手入れしてきた経緯があります。こうして守られてきた自然は、これからは恒久的に未来に受け継がれていきます。

※ボランティアによる保全活動は今後も継続していきます。



喜多見五丁目竹山市民緑地



成城四丁目十一山市民緑地

区内中小企業者を対象に実務講習会を実施

公共施設の改修工事に携わる区内建築・電気・機械事業者等を対象とした実務講習会を開催しました。今回は『区立芦花小学校・中学校増築他工事』現場の見学を行いました。参加事業者の方々は、施工方法や設置機器の説明を受け、熱心に見学していました。



新たな空き家等地域貢献活用物件が開設
空き家等地域貢献活用相談窓口を通してオーナーと結びつきました。

●はじめてろうの音楽クラブ
（野沢3-10-23）
老若男女、障害のあるなしに関わらず気軽に音楽を楽しめる場所です。また、移動支援、居宅介護を中心とした障害福祉サービス事業も行っていきます。



●ふかさわおでかけひろば
ワークスペースプラス
（深沢4-2-21 1F）
親子で一緒に遊んだり、情報交換やお友達づくりができる憩いの場所です。お子さまの近くでゆるやかにお仕事ができる部屋もあります。



成城環境保全協会よりご寄附をいただきました



成城環境保全協会は、成城周辺の桜並木をはじめとして、区内の花と緑に囲まれた豊かな住環境を守り、育てることを目的に、成城地域を中心として活動されている企業・団体・飲食店の有志で設立された団体です。

この度、当財団の「みどりを守り育むトラスト運動」が、その設立趣旨に沿っているという経緯から、成城環境保全協会にて販売を始めたオリジナルクラフトビール『成城 CRAFT BEER』の売り上げの中から、1本につき100円を財団の「一般財団法人世田谷トラストまちづくりトラスト基金」に、ご寄附をいただきました。このご寄附に対し、財団の男鹿理事長より感謝状を贈呈させていただきました。引き続き、成城環境保全協会では財団へのご寄附を検討いただいております。

また、成城環境保全協会のFacebookでは、『成城 CRAFT BEERでミドリヲツナグ!サクラモマモル』活動の様や、オリジナルクラフトビールを扱っている飲食店など最新の情報が、ご覧になれます。

皆さんも『成城 CRAFT BEER』をぜひ楽しんでいただき、当財団の「一般財団法人世田谷トラストまちづくりトラスト基金」を活用し進めている「世田谷の自然環境や歴史的・文化的環境を守り、次世代へ引き継いでいく」活動への応援をよろしくお願いいたします。

《成城環境保全協会ご連絡先》 TEL 03-5490-2521 FAX 03-6909-0602 成城環境保全協会 会長 山本真孝

ご寄附のお礼

2020年4月1日から12月31日までに、1,127,489円の寄附金(会費、一般寄附)を皆さまからいただきました。誠にありがとうございました。今後も引き続きご支援いただきますようお願い申し上げます。

トラストまちづくり会員大募集

会費種別と年会費

- 個人賛助会員 1年会員 1口1,000円 3年会員 1口3,000円
- 家族賛助会員 1年会員 1口2,000円 3年会員 1口6,000円
- 法人賛助会員 1年会員 1口10,000円 3年会員 1口30,000円
- 子ども会員 小学校在学期間 1口1,000円

会員特典

- ① 会員証発行
- ② トラストまちづくり情報誌等の送付
※希望者に送付します。情報等は財団HPからもダウンロードできます。
- ③ 事業協力者からのサービス提供
- ④ イベント参加の優待

会費の用途を以下の3つから選択することができます。

- ① **トラスト基金** (世田谷区内の自然や歴史的・文化的な佇まいを守る費用)
- ② **まちづくり活動基金** (区民主体によるまちづくり活動を支援する費用)
- ③ **おまかせします** (2つの基金に1/2ずつ入れさせていただきます)



案内パンフレットをお送りします

tel 03-6379-1620
fax 03-6379-4233



トラまちPress

ひと・まち・自然 Vol.19
2021年3月発行
<https://www.setagayatm.or.jp/>

発行 一般財団法人 世田谷トラストまちづくり
〒156-0043 世田谷区松原6-3-5
Tel 03-6379-4300(代表)
Fax 03-6379-4233



【財団ホームページ】
世田谷トラストまちづくり
<https://www.setagayatm.or.jp/>



【フェイスブック】
世田谷トラストまちづくり
<https://www.facebook.com/tm.toramachi>



【ツイッター】
世田谷トラストまちづくり
https://twitter.com/setagaya_tm

🏠【ビジターセンター】成城 4-29-1 ☎ 03-3789-6111 🌸【フラワーランド】瀬田 5-30-1 ☎ 03-3707-7881